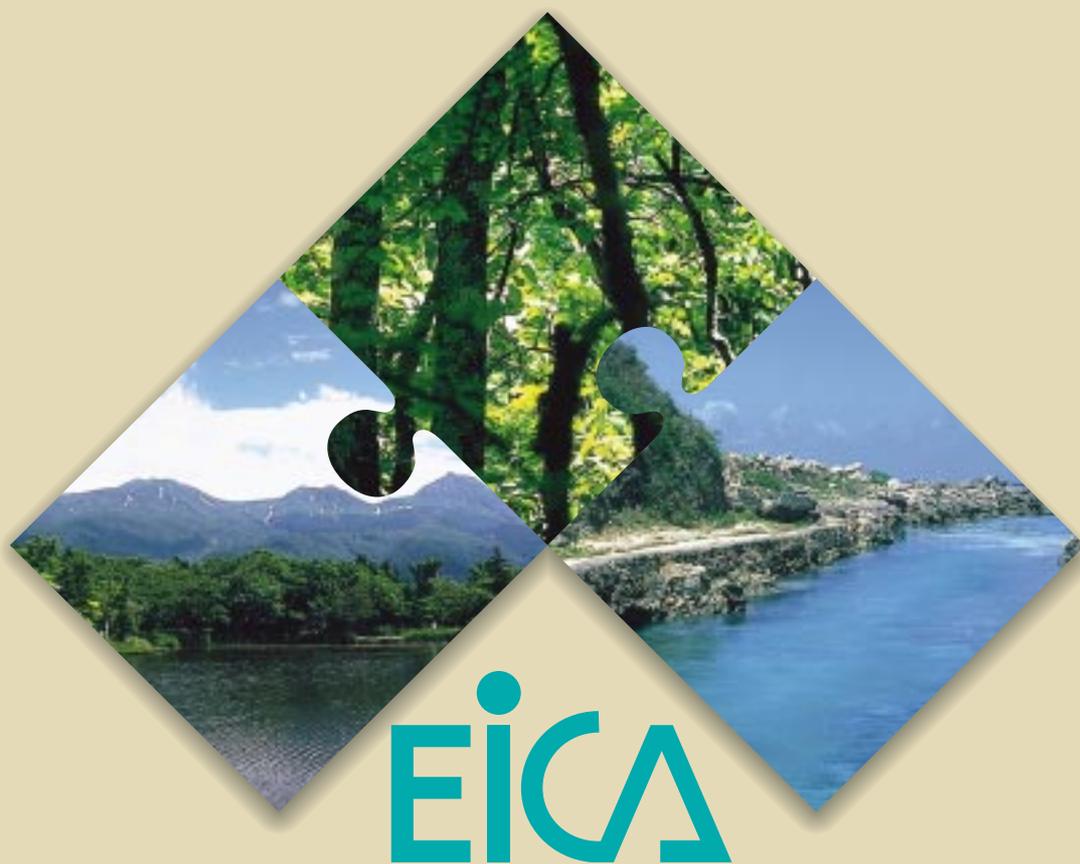


# 10 環境システム計測制御学会 年のあゆみ



EiCA



## EICA設立10周年を迎えて

会長 平岡 正勝 京都大学名誉教授  
立命館大学エコ・テクノロジー研究センター長

ミレニアムの本年、EICAは記念すべき10周年を迎え、皆様とともにお慶び申し上げます。

水処理システムの計測・制御と自動化に関する国際会議(ICA Workshop)が国際水質汚濁研究協会(IAWPRC)のSpecialist Groupによって最初にロンドン/パリで開催されたのは1973年の秋であった。この情報を得て、衛生工学の中心課題である水処理にプロセス制御を適用する国際研究グループが作られたのを大変喜び、ロンドン/ストックホルムで開催された第2回Workshopに仲間と共に参加し、以来毎回継続して参加してきている。

1970年代には水処理プロセスのDO制御、MLSS制御等の研究が数多く行なわれたが、当時導入された集中型の自動制御システムは完全には機能せず、現場に定着しなかった。この原因は、1950～60年代に石油化学工業などのプロセス産業に導入されたプロセス制御技術をそのまま水処理に持ち込んだ為であると考えた。環境システムと石油化学プロセスとの根本的な違いは、(1) 入力の質、量の不可制御性、(2) センサーの不安定性、連続測定困難性、(3) システムの非線形性、多変数制御の必要性、である。

ちょうどこの頃、「ダイナミックシステムの統計的解析と制御」(赤池弘次教授著)という多変数制御の本が出版され、当時の津村助手にARモデルの環境システムへの応用を基本にしようと持ちかけ勉強を始めた。最初にARモデルの研究論文を発表したところ、水処理メーカーに興味を示してもらい、協力を得てARモデルによる下水処理システムの統計的制御を実用化することができ、1990年のICAワークショップで公開発表して高い評価を得た。また、同時に焼却炉メーカーの協力のもとに、焼却炉の燃焼制御についても実用化することができた。このような新しい研究の発表を行い、情報を交換する場を日本でも継続的に持ちたい、それを実現した形がEICAであった。

4年ごとに開催されるICA国際ワークショップに呼応して、そのプレ会議として国内運営委員会が組織され、1980年10月に第1回国内ワークショップが、84年、89年にも同様な国内ワークショップが開催された。

1990年には、京都で開かれる第15回IAWQ国際水質汚濁研究会に合わせて、私がChairmanを務め第5回国際ワークショップを横浜/京都で開催した。これを契機として、水環境問題に特化した学際的な組織を継続的に設立しようということになり、1991年に「EICA環境システム計測制御自動化研究会」が組織された。ICAに対しEをつけたのは、水環境に限らず大気、廃棄物等広く環境問題を対象とすべきだと考えてのことであった。

1996年に「EICA環境システム計測制御学会」と改名し、本格的な学会を目指して研究活動が始まった。ICAにおいても日本の占める役割は年々大きくなり、1997年7月ブライトン/ロンドンで開催されたICA創立25周年記念の第7回国際ワークショップでは、EICAから3名が表彰を受けた。

その後、研究会の立ち上げから全力を注いで頂いた津村和志君が急逝するという痛恨の極みである出来事があったが、1999年9月14日には、晴れて日本学術会議の学術団体として認可された。この認可を一番喜んでくれていであろう津村和志君の永年の努力に、あらためて謝意を表したい。

さて、21世紀を目前に控え、最近のIT関連ハイテク技術の進歩は目覚ましいものがあるが、これらの新しい技術及び社会システムに注目しながら、地球環境保全に寄与する学術研究団体として、EICA設立10周年を契機に会員一同が力を合わせ、世界をリードする更なる研究開発の推進・研鑽と21世紀の新しい発展を目指して努力していきたいものである。



## EICA 10 years

**Gustaf Olsson**

Professor in Industrial Automation, Lund University, Sweden  
Chairman of the IWA specialist group on ICA

Instrumentation, control and automation (ICA) early became an important part of research and development in the water and wastewater treatment industry. There have been many driving forces for ICA, where the most apparent one is always financial. It is simply possible to save money by using more ICA!

Already in 1973 the first international IAWPRC (now IWA) conference on ICA in water and wastewater treatment and transport systems was arranged in London. It was a great success and almost 250 persons met there including several researchers from Japan. The Japanese representation has been continuously impressive during the past two decades and a half with Professor M. Hiraoka of Kyoto University (now Professor Emeritus) as the obvious leader in the field in Japan. Since 1973 this successful series of ICA conferences have continued every 4 years, and the 8th one in the sequence is planned for June 2001, to take place in Sweden. It will be called the 1st IWA conference on ICA.

Since 1973 I have had the privilege and pleasure to participate in each one of the ICA conferences. The conference arranged in Japan in 1990, with the specialist workshop in Yokohama followed by the large Biennial conference in Kyoto, stands out in my memory for many reasons. The organisation was perfect (as usual in Japan!), the demonstrations and plants we saw were quite impressive, and the Japanese colleagues were fantastic hosts. At this occasion I think it is appropriate to express my deep personal loss when Dr. K. Tsumura from Kyoto University passed away. He was truly one of the key persons in the Japanese ICA.

Our Japanese colleagues have always been a most important part of the IWA (and previously IAWQ and IAWPRC) ICA group. We wish to congratulate EICA for your first 10 successful years. We know that EICA will play a significant role on the international scene to bring forward new research and new important applications of control and automation.

There are still great challenges ahead. Too many practising engineers within the environmental field still do not recognise the potential of ICA. Thus, the educational task is important. We also need to show the professional society successful applications and how they save resources as well as provide consistent operation that in the long run will protect our precious environment.

From the IWA Specialist Group on ICA we wish you a most successful next decade and look forward to more inspiring co-operation on the international scene.

# EICA設立の経緯とこれまでの活動

## 第1回国内ワークショップ 1980年(昭和55年)

水質汚濁防止の整備が進む中で、下 wastewater 処理の制御、公共水域の水質監視をめぐる科学技術の課題は高度化し、特に測定及び制御機器とそれらのシステムに重要な役割が求められる中、1973年には国際水質汚濁研究会 (IAWPRC 後IAWQ 現IWA) が「下 wastewater 処理の自動制御と水質の計測監視に関するワークショップ」を開催し、日本からの発表参加も望まれた。これらの背景から国際ワークショップのプレ会議として、運営委員会が組織され、1980年10月に第1回国内ワークショップを「下 wastewater 処理の自動制御と水質の計測監視に関するワークショップ」として大阪科学技術センターで開催し、特別講演「下水処理の自動制御の現状と今後の課題」日本下水道事業団 小沢勇太郎氏のあと49件の発表がなされ、130名の参加者を得た。翌年のミュンヘン工科大学でのICA国際ワークショップには日本から40名余りが参加した。

## 第2回国内ワークショップ 1984年(昭和59年)

計測・制御・コンピュータ技術は急速に進歩し、各種産業の自動化高速化を促し産業構造の変革期にあり、上水・下水分野への参入も多く見られた。第2回ワークショップは、昭和59年5月30・31日に大阪市立労働会館で開催され、上水の分野を加え「水システム自動計測制御ワークショップ」として54件の研究発表が行われ約200名の参加を得て、熱心な討論がなされた。1985年4月にアメリカ デンバー・ヒューストンで開催された第4回IAWQ ICA国際ワークショップは、国内ワークショップの討議を踏まえた意義深い会議となった。

## 第3回国内ワークショップ 1989年(平成1年)

IAWQ国際水質汚濁研究会は1990年に第15回国際会議を日本(京都)で開催することを決定した。それに伴い専門家グループ“ICA”(Instrumentation, Control and Automation)では、各国からの強い要請により同時期に第5回IAWQ ICA国際ワークショップを横浜市と京都市で開催することとなった。

その前年に当たる1989年(平成元年)10月26・27日に、京都平安会館で「第3回水システム自動計測制御国内ワークショップ」が開催された。同ワークショップには、Dr. Bruce E. Jank、Dr. John F. Andrews、Dr. Carmen F. Guarino、Dr. Ronald Briggs、Dr. -Ing J. H. Lohmann、Dr. Gustaf Olssonら各国のプログラム委員による特別講演も行われ、70件の研究発表と約230名の参加者を得て、翌年の国際ワークショップへの橋渡しとなった。

## 第5回ICA国際ワークショップ 1990年(平成2年)

日本で初めてのICA国際ワークショップは、1990年(平成2年)7月26日から28日横浜市の全面的な支援を得て、横浜国際会議場を主会場に、プレワークショップで始まった。横浜市水道局浄水部長 坂崎貞夫氏、同下水道局局長 加藤隆夫氏をはじめ海外からの2件を加えた4件の特別講演と各国からのキーノートスピーチでは、日本から東洋大学 後藤圭司教授、海外から前年の国内ワークショップに参加した、米(Dr. J. F. Andrews)、加(Dr. B. Jank)、英(Dr. R. Briggs)、独(Dr. J. Lohmann)、スウェーデン(Dr. G. Olsson)の各氏が講演された。見学は横浜市の北部第二下水処理場、同水道局調整センター、水道記念会館で行われた。中でも横浜市主催の横浜メルパルクでの歓迎レセプションや、“赤い靴号”による横浜港遊覧、横浜三溪園でのお茶会などのレディースプログラムを含め、充実したホスピタリティーは海外の参加者からも絶賛された。

京都でのIAWQ本会議と合流してからの7月29日から8月3日のワークショップでは国内から口頭発表16、ポスター発表24件と最大の参加者となり、海外からのメンバーとの活発な討議はこの分野における日本の先進的な役割を内外に示す重要な場となった。最終日には大阪府の川俣下水処理場を見学して、内容の充実した国際ワークショップとして高い評価を得た。

## 「EICA 環境システム計測制御自動化研究会」の設立 1991年(平成3年)

横浜 京都での第5回ICA国際ワークショップの開催を契機として、国内に継続的な研究会組織を設立する機運が高まり、有志による準備委員会が発足し一年余に渡る検討の末に、1991年4月9日 京都大学平岡教授を会長に、この分野の官学民にわたる研究者・技術者を結集したEICA環境システム計測制御自動化研究会が設立された。

## 第4回国内ワークショップ 1992年(平成4年)

平成4年9月3日・4日に横浜開港記念会館で開催したワークショップでは、特別講演として「わが国の下水道の発展と今後の展望」日本下水道事業団理事長 中本 至氏、「小規模汚水処理技術の現状と今後」日本環境整備教育センター環境研究部長 大森 英昭氏を講師にお招きし開催された。論文発表は、従来の水分野に加え、污泥廃棄物処理・環境情報のセッションを新たに設置し、「環境システム自動計測制御国内ワークショップ」としてより広範な研究者の結集のもと、発表件数80件 参加者250名と充実した研究発表の場となった。翌年のカナダ バンフでの第6回 IAWQ ICA国際ワークショップには、この国内ワークショップで発表された日本の研究論文が多数発表された。

## 第1回EICAリレー研究発表会 1993年(平成5年)

本会の活動を広く国内に広めようと、隔年で各地方都市をまわり研究発表会を開催することとなった。

第1回を平成5年11月11日、広島市にて開催。「水処理管理者のための自動計測技術の動向」と題して、近畿大学工学部教授・EICA副会長 砂原広志氏の基調講演が行われた。招待講演として、「大田川シアン流出とその対策」広島市水道局 広田忠彦氏、「広島県の下水処理の現状と将来計画」広島県土木建築部 吉原 寛氏による講演の後、4件の論文発表が行われた。また、「水道管理 自動計測技術の今後について」と題してパネルディスカッションが行われた。パネラーは、本会の平岡会長、大音副会長、砂原副会長、津村事務局長の他、広島市(広田忠彦氏 水道局配水部水質管理課長)、日立製作所(馬場研二氏 環境技術研究センター室長)、電気化学計器(森 正樹氏 専務取締役)。参加者66名で旺盛な討議が展開された。翌12日はマツダ本社工場・宮島下水処理場の見学会を行った。

## 第5回国内ワークショップ 1994年(平成6年)

第1回～第3回までは、4年に一度の開催であったが、研究分野がダイナミックに変化していく状況を受け、2年に一度の開催となった。

第5回という節目を迎え、平成6年9月8・9日に京都市サテライトパークで開催したワークショップでは、平岡会長による特別記念講演「地球環境技術(エコ・テクノロジー)とシステム開発の動向」が行われた。

また、「未来型下水道」と題し、パネラーとして大阪府(座長:木村淳弘氏 土木部副理事)、東京都(曾我部博氏 下水道局流域下水道本部長)、大阪市(結城庸介氏 下水道局技術監)、神戸市(斎藤 彬氏 下水道局長)、京都市(酒井和博氏 下水道局管路部計画課長)、滋賀県(中村栄一氏 土木部下水道計画課長)を迎え、各自治体の取り組みの報告とパネルディスカッションが行われた。また論文発表では、新たに情報処理分野を加え12セッションの各会場では討議の充実を図る運営に努力し、発表件数60件 参加者250名の充実した研究発表の場となった。

10月31日～11月1日には、関西新空港の廃棄物処理施設と長崎ハウステンボスの海水淡水化施設を見学した。

## 第2回EICAリレー研究発表会 1995年(平成7年)

平成7年11月16日、名古屋メルパルクにて開催。愛知県企業庁水道部長 黒田節男氏、名古屋市下水道局次長 前橋隆介氏を来賓に迎え、「高度情報管理システム」と題して、基調講演 名古屋大学大学院国際開発研究科 森島昭夫氏、招待講演として愛知県企業庁水道部水道計画課主幹 齊藤真氏と名古屋市下水道局計画課長 大脇英樹氏を講師として開催された。論文発表4件と津村事務局長よりIAWQの活動報告が行われた。研究会参加者94名、見学会参加者55名で旺盛な討議が展開された。翌17日はトヨタ産業技術記念館・宝神下水処理場の見学会を行った。

## 第6回EICA研究発表会 1996年(平成8年)と「EICA 環境システム計測制御学会」への名称変更

平成8年5月総会で、会の名称が「EICA環境システム計測制御学会」と変更され、初めての開催となり、より一層充実した研究発表の場をめざし、開催名称が「ワークショップ」から「EICA研究発表会」と改められた。平成8年9月26・27日横浜市技能文化会館で開催された研究発表会には、開催地より横浜市水道事業管理者 白濱英一氏を来賓に迎え、「21世紀の水と食料は」と題して、日本水道工業団体連合会専務理事 杉戸大作氏の基調講演が行われた。また、「高度情報化社会と水環境」と題して、環境庁(座長:八木美雄氏 水質保全局企画調査官)、東京都(中里卓治氏 下水道局計画部技術開発課長)、大垣市(土屋雅敏氏 水道部下水道課主幹)、横浜市(香林仁司氏 下水道局総務部経営企画課長)、横須賀市(城内三郎氏 水道局給水部水質課長)よりパネラーを迎え、各自治体の取り組みの報告とパネルディスカッションが行われた。論文発表では、新たに都市ゴミ分野を加え15セッションの各会場で旺盛な討議が展開され、翌年のICA国際ワークショップに向けて、発表件数は過去最高の69件 参加者300名の充実した研究発表の場となった。氷川丸で開催された懇親会には、横浜市下水道局長 安久津 昶氏に来賓としてご出席いただき交流を深めた。

## IAWQ ICA 25周年記念表彰 1997年(平成9年)

イギリス プライトンでの第7回IAWQ ICA国際ワークショップには、前年の第6回EICA研究発表会で討議された研究論文が多数発表された。またこの席上、ICA国際ワークショップ開設25周年を記念して表彰が行われ、英国・米国からの各3名とともにEICAから平岡会長、大音副会長、古里総務委員長が永年の功勞に対し記念表彰を受けた。

## 第3回EICAリレー研究発表会 1997年(平成9年)

平成9年9月11日、北海道大学 学術交流会館にて開催。北海道大学 総長 丹保 憲仁氏を来賓に迎え、基調講演 北海道大学都市環境工学専攻教授 渡辺 義公氏、招待講演として北海道庁環境生活部環境室 室長 小笠原 紘一氏と札幌市下水道局 局長 島田一功氏を講師にお招きして開催された。また、「高度情報管理システム」と題して7件の論文発表が行われた。翌12日は北海道大学高度処理実験プラント、北海道電力総合研究所の見学会を行った。研究会参加者130名、見学会参加者38名で旺盛な討議が展開された。

## 第7回EICA研究発表会 1998年(平成10年)

平成10年10月22・23日神戸市産業振興センターで開催された研究発表会には、開催地より神戸市水道事業管理者兼水道局長 小倉 晋氏より来賓挨拶をいただき、「ライフラインの機能確保と震災復興」～地震に強いライフラインを目指して～と題して、神戸大学工学部建設学科教授 高田至郎氏の基調講演が行われた。

また、「ライフラインの機能確保と震災復興」と題し、パネラーに神戸大学(座長:高田至郎氏 工学部建設学科教授)、建設省(安倍保博氏 近畿地方建設局道路管理課長)、神戸市(松下 眞氏 水道局計画課係長)、神戸市(畑 恵介氏 建設局下水道河川部計画課係長)、NTT(中野雅弘氏 関西法人営業本部地域開発推進部長)を迎え、パネルディスカッションが行われた。発表件数は過去最高の73件 参加者300名の充実した研究発表の場となり、新たに大気分野を加え20セッションの各会場で旺盛な討議が展開された。神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催された懇親会には、神戸市水道事業管理者兼水道局長 小倉 晋氏に来賓としてご出席いただき交流を深めた。

## EICA日本学会会議 学術研究団体に登録される 1999年(平成11年)

これまでの研究発表会の開催、学会誌の発行等の活動が認められ、平成11年9月14日付けで、日本学会議法(昭和23年法律第121号)第18条第3項に基づき、登録学術研究団体に登録された。関連研究連絡委員会は、「自動制御」。構成員数 560名。

## 第11回環境システム計測制御(EICA)研究発表会 1999年(平成11年)

平成11年9月30日、これまでの“リレー研究会”を含め、通算11回目の研究発表会として開催名称を「第11回環境システム計測制御(EICA)研究発表会」と改め、仙台市東北大学 民陵会館での開催となった。

基調講演「新世代型低負荷環境保全技術による廃棄物のエネルギー・化・再資源化」東北大学大学院工学研究科 教授 野池達也氏、招待講演としては「下水道と水環境・次世紀へ向けての新たな展開」建設省東北地方建設局企画部長 谷戸善彦氏と「仙台 暮らしと水 昨日、今日、明日」仙台市下水道局技監 櫻井克信氏を講師にお招きし、その後2セッション7件の論文発表が行われた。翌10月1日は仙台市水道記念館・東北電力仙台火力発電所、ニッカウイスキー仙台工場の見学会を行った。研究会参加者130名、見学会参加者45名で旺

## 総会開催の記録

年度	開催日	会場	講演会
3	1991.4.9	九段会館	
4	1992.4.24	機械振興会館	
5	1993.5.12	野口英世会館	下水道事業の現状と今後の問題点 建設省下水道部長 松井大悟 氏
6	1994.5.20	ザ・フォーラム	安全でおいしい水の確保のための水運用技術のあり方 厚生省水道環境部長 藤原正弘 氏
7	1995.5.26	京橋会館	阪神・淡路大震災と水道 東京都水道局給水部長 峯尾正臣 氏 下水道地震対策技術調査委員会-第1次答申 京都大学名誉教授 平岡正勝 氏
8	1996.5.22	機械振興会館	マルチメディアの現状と将来の課題 千葉工業大学電子工学科教授 小林幸雄 氏 環境マネジメント・監査の最近の動向 - 目前に迫ったISO14000シリーズの発効 日本環境認証機構代表取締役 福島 哲郎 氏
9	1997.5.15	芝 弥生会館	エネルギー関連規制緩和の国際動向と我が国の対応 東京農工大学工学部教授 柏木孝夫 氏 未来型水道へのアプローチ (財)水道技術研究センター専務理事 藤原正弘 氏
10	1998.5.14	九段会館	資源循環型社会をめざして 早稲田大学工学部教授 永田勝也 氏 世界の水道あれこれ 東洋大学工学部教授 後藤圭司 氏
11	1999.5.14	機械振興会館	廃棄物処理のアキレス腱・・・ダイオキシン等 国立公衆衛生院廃棄物工学部長 田中 勝 氏 下水道新技術推進機構の動きと「臨外と下水道」などを織りまぜて (財)下水道新技術推進機構専務理事 斎藤健次郎 氏
12	2000.5.19	芝 弥生会館	新世紀の経営感覚 - 環境新時代に向けて - 東京都公営企業管理者・水道局長 赤川正和 氏

## 研究発表会の記録

通算回数	名称	期日	場所	特別講演	パネル討論	発表 件数	参加 者数	見学先等
1	第1回ワークショップ	1980.10	大阪科学技術センター	「下水処理の自動制御の現状と今後の課題」日本下水道事業団東京支社 次長 小沢勇太郎氏		49	130	
2	第2回ワークショップ	1984. 5	大阪市立労働会館			54	155	
3	第3回ワークショップ	1989. 1	京都平安会館	"Optimizing Polymer Consumption in Sludge Dewatering Applications"Dr. B.Jank, "Integrated Dynamic Models and Control Systems for Wastewater Treatment Plants"Dr. J.Andrews, "Water Research Centre's(UK) Contribution to ICA"Dr. C.Guarino, "Recent Developments in Monitoring Water Quality"Dr.R.Briggs, "Development of the Discharge Conditions in the Federal Republic of Germany"Dr.J.Lohmann, "Estimation and Control as Tools for Improving Wastewater Treatment Performance"Dr.G.Olsson		59	210	
4	第4回ワークショップ	1992. 9	横浜開港記念会館	「わが国の下水道の発展と今後の展望」日本下水道事業団理事長 中本 至氏、「小規模汚水処理技術の現状と今後」日本環境整備教育センター環境研究部長 大森 英昭氏		62	215	
5	第1回リレー研究会	1993.11	KKR広島市	「水処理管理者のための自動計測技術の動向」近畿大学工学部教授・EICA副会長 砂原 広志氏「大田川シアン流出とその対策」広島市水道局 広田 忠彦 氏、「広島県の下処理の現状と将来計画」広島県土木建築部 吉原 寛氏、「既設処理場における嫌気・好気の試行」山口県新南陽市 中司 哲郎氏	「水道管理 自動計測技術の今後について」京都大学平岡正勝氏(EICA会長)、いわき明星大学大音透氏(EICA副会長)、近畿大学砂原広志氏(EICA副会長)、京都大学津村和志氏(EICA事務局長)、広島市広田忠彦氏、日立製作所馬場研二氏、電気化学計器森正樹氏	3	66	マツダ本社工場・宮島下水処理場
6	第5回ワークショップ	1994. 9	京都リサーチパーク	「地球環境技術(エコ・テクノロジー)とシステム開発の動向」京都大学名誉教授・EICA会長 平岡正勝氏	「未来型下水道」大阪府木村淳弘氏(座長)、東京都曾我部 博氏、大阪市結城庸介氏、神戸市齋藤 彬氏、京都市酒井和博氏、滋賀県中村栄一氏	60	250	
7	第2回リレー研究会	1995.11	名古屋メルパルク	「高度情報管理システム」名古屋大学大学院国際開発研究科科長 森 篤昭氏愛知県企業庁水道部水道計画課主幹 齊藤 眞 氏、名古屋市下水道局計画課長 大脇英樹氏		4	94	トヨタ産業技術記念館・宝神下水処理場
8	第6回研究発表会	1996. 9	横浜市技能文化会館	「21世紀の水と食糧は」日本水道工業団体連合会専務理事 杉戸大作氏「21世紀の水と食糧は」	「高度情報化社会と水環境」環境庁 八木美雄氏(座長)、東京都中里卓治氏、大垣市土屋雅敏氏、横浜市香林仁司氏、横須賀市城内三郎氏	69	300	
9	第3回リレー研究会	1997. 9	北海道大学学術交流会館	「ハイブリッド下水処理システム」北海道大学都市環境工学専攻教授 渡辺 義公氏「北海道の水道の現状と課題」北海道庁環境生活部環境室 室長 小笠原 紘一 氏、「札幌市における下水道の現状と課題」札幌市下水道局 局長 島田 一功 氏		7	130	北海道大学高度処理実験プラント・北海道電力総合研究所
10	第7回研究発表会	1998.10	神戸市産業振興センター	「ライフラインの機能確保と震災復興」～地震に強いライフラインを目指して～ 神戸大学工学部建設学科教授 高田至郎氏	「ライフラインの機能確保と震災復興」神戸大学高田至郎氏(座長)、建設省安倍保博氏、神戸市松下 眞氏、神戸市畑恵介氏、NTT中野雅弘氏	73	300	
11	第11回研究発表会	1999. 9	東北大学 良陵会館	「新世代型低負荷環境保全技術による廃棄物のエネルギー・化・再資源化」東北大学大学院工学研究科教授 野池達也氏「下水道と水環境・次世紀へ向けての新たな展開」建設省東北地方建設局企画部長 谷戸善彦氏「仙台 - くらしと水 - 昨日、今日、明日」仙台市下水道局技監 櫻井克信氏		7	130	仙台市水道記念館・東北電力仙台火力発電所・ニッカウイスキー仙台工場

西元	暦号	73 昭和 48	74 49	75 50	76 51	77 52	78 53	79 54	80 55	81 56	82 57	83 58	84 59	85 60
内外の動き		江崎玲於奈ノーベル賞受賞 第1次オイルショック 円変動相場制へ	狂乱物価 佐藤栄作ノーベル賞受賞 エネルギー危機	ヴェトナム戦争終結 沖縄海洋博開催 構造不況	五つ子誕生 モントリオール五輪 ロッキード事件	平均寿命男女とも世界一に 200カイリ法施行 王756本・本塁打世界一に	成田空港開港 日中平和友好条約締結	第2次オイルショック 東京サミット	景気過熱 モスクワ五輪不参加 衆院参院同時選挙	福井謙一ノーベル賞受賞 国家公務員週休2日制 神戸ポートピアアイランド博	予算マイナスシーリング 東北・上越新幹線開通	ナベソコ不況 東京デイズニールランド閉園 金融機関土休	ロサンゼルス五輪 グリコ森永事件	筑波科学万博開催 NTT民営化
(開催日)	EICAの 主な出来 総 会								(10/28)					
(開催日)	刊 行 物													
(開催日)	研究発表会  (講演・パネル討議/発表者)								(10/28-29)				(10/30-31)	
(開催日)	(ICA W/S他 海外活動)  (海外調査団結成) (日本の発表 口頭/ポスター)	(9/16-21) ロンドン 第一回イギリス				(5/16-21) ロンドン 第二回スエーデン				(6/21-27) ミュンヘン 第三回ドイツ				(4/27-5) 第四回アメリカ
会員数の変遷	人 500 250 0	(1/0)				(3/0)				(12/24)				(11/3)

# 年のあゆみ

	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00
	61	62	63	平成 元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日航機御巣鷹山墜落 前川リポート	円高定着化 チェルノブイリ原発事故	利根川進ノーベル賞受賞 国鉄民営化	NY株暴落ブラックマンデー ソウル五輪	中国天安門事件 ベルリンの壁崩壊 消費税導入	大阪花博開催 秋篠宮ご成婚 イランクウェイト湾岸戦争勃発	ソ連邦解体 雲仙岳噴火 南ア・アパルトヘイト終結	山形新幹線開通 バルセロナ五輪 平成複合不況パブル崩壊	米緊急輸入 皇太子ご成婚 EC市場統合スタート	環境基本法成立 北海道奥尻島津波 関西国際空港開港	阪神淡路大震災 1\$79・5円 地下鉄サリン事件	東証ダウ平均二万円台割れ 業書エイズ訴訟 アトランタ五輪	大型金融倒産 秋田・長野新幹線開通 香港返還	長野五輪 明石大橋開通	JCO東海村被爆事故 しまなみ海道橋開通	シドニー五輪 有珠山噴火
						(4/9)	(4/24)	(5/12)	(5/20)	(5/26)	(5/22)	(5/15)	(5/14)	(5/14)(9/14)	(5/19)
						御自動化研究会の設立総会 EICA環境システム計測制	第一回総会	第三回総会	第四回総会	第五回総会	御学会への名称変更 EICA環境システム計測制 第六回総会	第七回総会	第八回総会	に登録される 日本学会会議学術研究団体 第九回総会	EICA設立十周年総会
						(7/5)	(1/5.3/1.7/27)	(1/24)	(1/5.3/1.7/27)	(1/5)(7/5)	(1/5.3/1.9/12)	(3/15)(9/11)	(3/15)(9/15)	(3/15)(9/15)	(3/15)
						EICAニュース(1)	EICAニュース(2)	EICAニュース(4)	EICAニュース(5)	EICAニュース(6)	EICAニュース(7)	EICAニュース(8)	EICAニュース(9)	EICA誌VOL1(1)2)	EICA誌VOL1(3)4)
				(10/26・27)			(9/3・4)	(11/11・12)	(9/8・9)	(11/16・17)	(9/26・27)	(9/11・12)	(10/22・23)	(9/30・10/1)	
				京都/平安会館 第三回ワークショップ (6/70)			横浜/開港記念会館 第四回ワークショップ (2/64)	昇学/多摩宮島水管理センター 広島/KKR広島 第一回リレー研究会 (4/3)	昇学/関西新空港ハウスデンボス 京都/京都リサーチパーク 第五回ワークショップ (2/60)	見学/トヨタ、宝神処理場 名古屋/メルバルク名古屋 第二回リレー研究会 (3/4)	横浜/横浜技能文化会館 第六回研究発表会 (2/71)	見学/北電総研、北大実験 札幌/北大学術交流会館 第三回リレー研究会 (7)	神戸/産業振興センター 第七回研究発表会 (2/73)	昇学/仙台火力水道記念館、ツカ 仙台/東北大民衆会館 第十一回研究発表会 (3/7)	
(4)					(7/26~8/2)	(9/30~10/9)		(6/16~24)		(10/24~11/4)		(7/6~10)			
デンバー ヒューストン				横浜 京都 第五回日本 WPCF トロント会議			バンフ ハミルトン 第六回カナダ			コペンハーゲン センサー特別シンポ		ブライトン ロンドン 第七回イギリス			
6)					(16/40)	(19/23)		(6/14)		(3/0)		(11/6)			





# 写真で見るEICAのあゆみ

1990年 第5回IAWPRC ICA国際プレワークショップ(横浜)



平岡会長 挨拶



懇親会風景



1991年 環境システム計測制御自動化研究会設立総会



1992年 第4回EICA  
国内ワークショップ(横浜)



船上パーティ

1994年 見学会  
長崎ハウステンボス



# 写真で見るEICAのあゆみ

## 1996年 第6回EICA研究発表会(横浜)



来賓 横浜市水道事業管理者  
白濱英一氏

基調講演  
(財)日本水道工業団体連合会専務理事  
杉戸大作氏



パネルディスカッション「高度情報化社会と水環境」

## 1997年 EICAリレー研究会(札幌)



北海道大学 丹保総長



## 1997年 第7回IAWQ ICA国際ワークショップ



ロッテルダム(オランダ)の浄水場見学中の調査団メンバー

## 1998年 第7回EICA研究発表会(神戸)

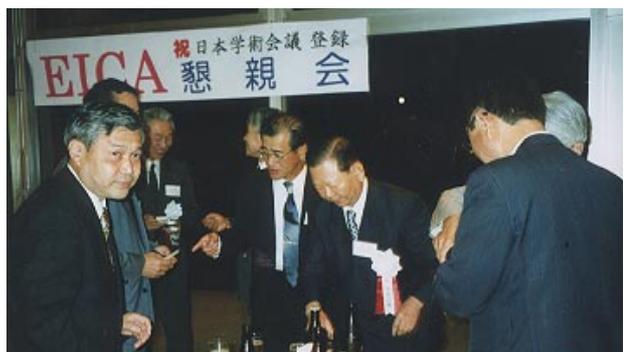


来賓 神戸水道事業管理者  
小倉 晋氏



基調講演 神戸大学工学部  
高田至郎氏

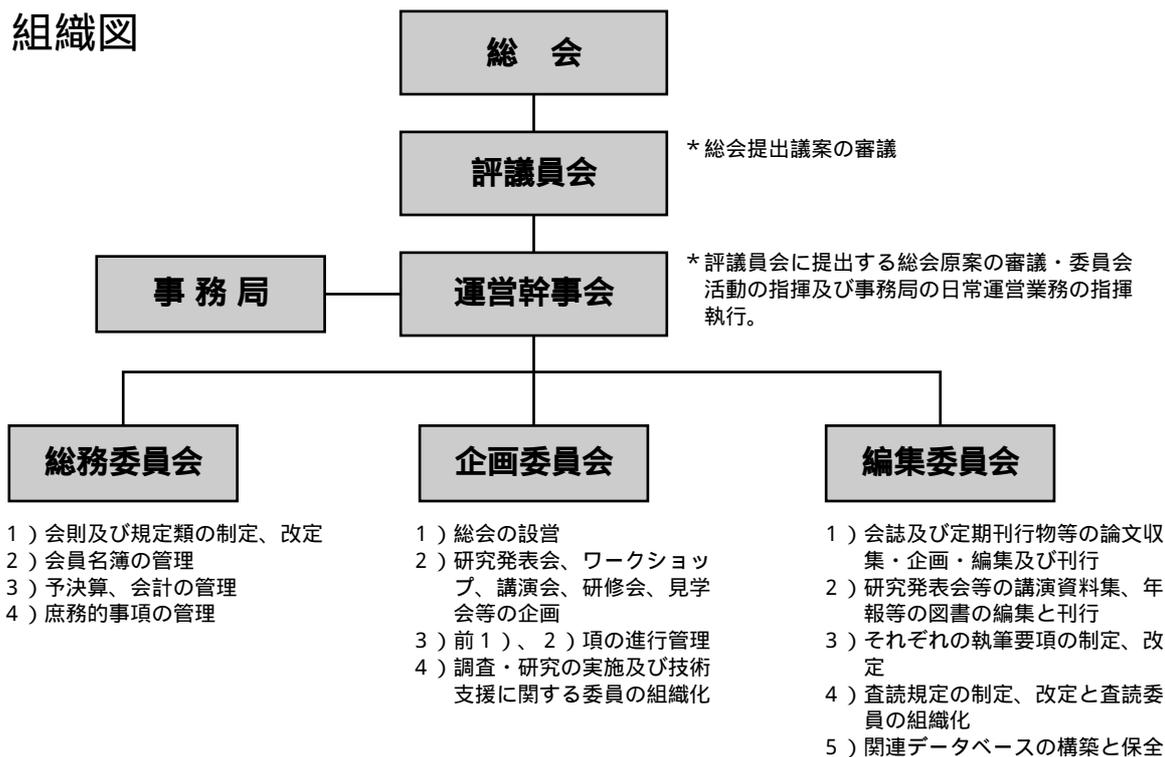
## 1999年 第11回EICA研究発表会 日本学術会議登録懇親会(仙台)



## 歴代評議員名簿( H3 ~ H7運営委員 )

		年度									委員委嘱時所属
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	
会 長	平岡正勝										京都大学
副会長	大音 透										いわき明星大学
副会長	砂原広志										広島大学
副会長( H9 )	笠倉忠夫	監事	監事	監事							豊橋技術科学大学
事務局長	津村和志										京都大学
	藤原健史										京都大学
評議員	有賀喜一										㈱堀場製作所
	飯島敏洋										日本鋼管(株)
	池田誠一										日新電機(株)
	石田宏司										㈱クボタ
	石橋勇之										日本鋼管(株)
( 幹事長 )	井手義弘						副幹事長	副幹事長	幹事長	幹事長	川崎重工(株)
	犬島和夫										㈱クボタ
	石崎俊彦										㈱東芝
	岩崎恢己										㈱タクマ
	岩堀恵祐										大阪大学
	白井正和										富士電機(株)
	追川宏之										三菱電機(株)
	大西春樹										寝屋川南部広域下水道組合
	小川琢也										原子燃料工業(株)
	億 茂										㈱神戸製鋼所
	岡部行好										日本上下水道設計(株)
	奥野長晴										滋賀県立大学
	奥藤 武										㈱タクマ
	柏木雅彦										㈱日立製作所
	勝浦英雄										ユニチカ(株)
	加藤孝夫										㈱東芝
	金崎大和										㈱石垣
	金谷利憲										㈱安川電機
	鎌田建次										日本鋼管(株)
	川崎信彦										月島機械(株)
	窪谷薫芳										大阪富士工業(株)
	栗林宗人										㈱日水コン
	河野道之輔										富士電機(株)
	河本 弘										㈱明電舎
	後藤顕之輔										㈱明電舎
	後藤忠一										栗田工業(株)
	近藤史朗										神鋼バンテック(株)
	酒井伸一										京都大学工学部
	清水泰治										㈱東芝
( 幹事長 )	下田 潤						幹事長	幹事長			㈱東芝
	鈴木一如										㈱荏原製作所
	高垣博光										松下電器産業(株)
	武田信生										京都大学工学部
	竹田 允										㈱神戸製鋼所
	田崎哲也										NJS 日本上下水道設計(株)
	田中和博										日本下水道事業団
	田原 肇										㈱西原環境衛生研究所
	鳥瀧 真										㈱タクマ
	坪井 徹										日本ガイシ(株)
	長瀬忍夫				監事	監事	監事	監事	監事	監事	横河電機(株)
	永松定祐										㈱荏原インフィルコ
( 幹事長 )	那須利雄			幹事長	幹事長	幹事長					三菱電機(株)
	西野啓輔										日新電機(株)
	野北舜介						監事	監事	監事	監事	茨城大学
	萩原隆一										住友重機械工業(株)
	濱口利男										月島機械(株)
	番匠賢治										資源環境技術総合研究所
	深沢昭一										日本下水道協会
	福嶋良助										㈱堀場製作所
	藤田逸朗										㈱安川電機
	古里明瑠										㈱西原環境衛生研究所
	松井三郎										京都大学工学部
	三浦 明										紀本電子工業(株)
	溝口次夫										佛教大学
	嶺尾孝雄										アタカ工業(株)
	村上忠彦										㈱日立システムテクノロジー
	本村碩敏										栗田工業(株)
	森 隆之										日本ガイシ(株)
	森 正樹										電気化学計器(株)
	森 亮一										山武ハネウエル(株)
	盛口全太										三菱電機(株)
	山下耕作										アタカ工業(株)
	柳沢 新										電気化学計器(株)
	山本純雄										宇都宮大学
	横山賢一										川崎重工(株)
	渡辺征夫										国立公衆衛生院
( 副幹事長 )	早稲田邦夫								副幹事長	副幹事長	㈱日立製作所
			35名	34名	38名	39名	40名	39名	41名	46名	

# 組織図



# 歴代役員名簿

年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11
会長	平岡正勝								
副会長	大音 透								
副会長	砂原広志				笠倉忠夫				
幹事長				那須利雄		下田 潤		井手義弘	
副幹事長						井手義弘		早稻田邦夫	
監 事	笠倉忠夫		長瀬忍夫			長瀬忍夫・野北瞬介			
	総務委員会								
委員長					古里明瑠		鈴木一如		
副委員長					森 正樹		加藤孝夫		
副委員長					早稻田邦夫		古里明瑠		
	行事小委員会・調査小委員会					企画委員会			
委員長	柏木雅彦(行事)			後藤頭之輔		後藤頭之輔			
副委員長	河野道之輔	白井正和			白井正和				
副委員長					森 隆之		坪井 徹		
委員長	大音 透(調査)								
副委員長	森 正樹								
	ニュース小委員会					編集委員会			
委員長	盛口全太		石崎俊彦		下田 潤		岩堀恵祐		
副委員長	清水泰治	石崎俊彦		那須利雄		那須利雄		追川弘行	
副委員長					後藤忠一		本村碩敏		
	年報小委員会								
委員長	津村和志			岩堀恵祐					
副委員長	岩堀恵祐			津村和志					
事務局長	津村和志							藤原健史	
事務局次長	波能寿子								

## 編纂後記

当学会は1991年(平成3年)4月設立以来、今年で記念すべき10周年を迎えました。そこで、これを記念して「EICA10年のあゆみ」を編纂することになりました。EICAが設立されるもととなったIAW - ICA国際ワークショップとの関わりから1999年(平成11年)9月に日本学会会議に登録学術研究団体として登録され今日に至るまでの活動を正確に記録することを第一に、年表・写真・新聞記事なども交えて紹介し、後世に引き継いでいくことと致しました。

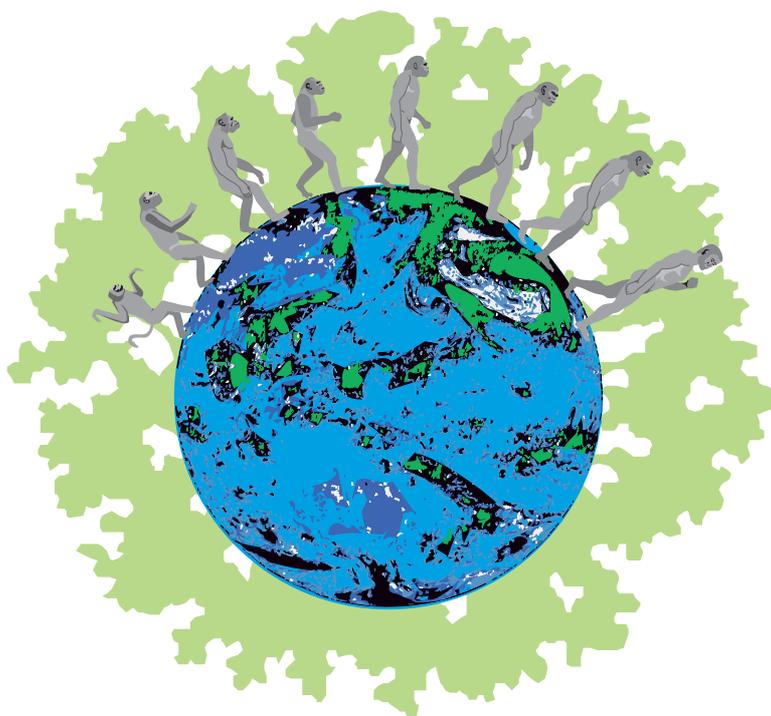
新聞各社をはじめ資料の提供やご協力をいただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

諸先輩の足跡に学びながら、今後の発展に向かって指針となれば幸いです。

「EICA10年のあゆみ」編纂委員会

委員長 古里明瑠(社東京下水道設備協会)

委員 沖 芳紀(株西原環境衛生研究所) 鈴木一如(株荏原製作所) 早稻田邦夫(株日立製作所)  
後藤頭之輔(株明電舎) 田原 肇(EUCオフィス・タハラ) 波能寿子(事務局)



環境システム計測制御学会 10年のあゆみ

---

編 纂：環境システム計測制御学会

EICA10年のあゆみ編纂委員会

発 行：EICA環境システム計測制御学会

〒500-8362 岐阜市岐阜市西荘1-7-6-2A

TEL 058(254)8533 FAX 058(254)8533

Email: info@eica.jp

<http://eica.jp/>

---

2000年(平成12年)5月19日発行